研究職に向いている人の特徴：「〇〇をずっと続けられる人」

「研究職に向いている人は、どんな特徴ですか？」

時々目にするご質問ですが、改めて言われてみると、

どんな人が研究職に向いているか、なかなか答えられないのではないでしょうか？

企業の研究職に就くと、

これまで自分が経験してこなかったことをたくさん担当します。

仕事を通してさまざまな経験をして、

会社員・企業研究者として成長していきます。

一方、

企業研究者は会社員であると同時に、

科学の発展に貢献する研究者でもあります。

新しい技術を開発すれば、

世界のモノづくりを変えてしまう可能性もあります。

世界ではいたるところで最先端の研究が行われ、

日々新発見や技術開発が行われています。

今回は、

研究職に向いている人の特徴：就職後も勉強し続けられる人は向いています！

について書いていきます。

研究職に向いている人の特徴：就職後も勉強し続けられる人は向いています！企業にいると、勉強する努力を怠りがち。

仕事が忙しくても忙しくなくても、
自分のための時間を確保して有意義に使うのは難しいです。
仕事が忙しいと、
勉強をしている時間を確保するのは難しく感じられます。
特に企業では次から次へと案件が舞い込んでくるため、
それを処理しているうちに一日終わってしまったとこともザラです。周りの人もそのような状況だと、
会社や部署の雰囲気的に緊急を要さない仕事を優先できないでしょう。仕事が忙しくなくても、
自分の勉強にうまく時間を回すのは心理的に難しいところがあります。

私は、今はそこまで忙しくない部署に所属しています。
しかし、特に会社では、人もいっぱいいると話がはずみます。
雑談がすべて悪というつもりはありませんが、
自分も含めて勉強する時間はいっぱいあるのに
うまく使えていないことも多いように感じられます。
余裕ある時間をすべて有意義なものに注力できないのが人というものです。

忙しいと時間がなく、忙しくなくてもうまく時間が使えない。
会社にはどちらのタイプの人もたくさんいます。

研究職として世の中から取り残されることなく生きていけるのでしょう。

知識やスキルは常に増やしていこう。

例えば、今の小学生はプログラミングが必修科目として学んでいます。
10年後を想像してみてください。
会社に入ってくる彼らの多くは、
プログラミングの基本概念が頭に入っているでしょう。
彼らからしたら
「プログラミングに触れたことがないって…」と少し白い眼を向けるかもしれません。一昔前は一部の専門家のスキルであったプログラミングも、
現在は幅広い分野の方が利用しています。
今はまだ知らなくても何とかなっていても、
5年後10年後は社会人の必須スキルになっているかもしれません。

今のうちから基本を少し勉強しておくだけでも、
数年後の自分を助けてくれるはずです。

例としてプログラミングを出しましたが、
技術開発や新発見も常に世界中で行われています。
本業にかかわりそうな技術や知見を常に勉強し、
数年後自分の知識や技術がさび付かないようにしましょう。お金をかけずに今からできることとして、以下2つを挙げておきます。

・自分の周りを見渡し、先端技術やノウハウに触れている人から教えてもらう。 ・時間をみつけてセミナーに参加する。知識を得るだけでも十分（と私は思います）。

ちなみに私は、ずっと敬遠していたRとPythonを勉強し始めました。
仕事上のきっかけもありますが、
それ以上に「何らかの形でプログラミングの分野に触れておきたかった」
という意識によるものが大きかったです。
基本だけでも知っておき、自分の今後の支えになればいいなと考えています。

まとめ

・企業研究職も、最先端の技術などを勉強する時間を確保しないと、一流の仕事ができなくなる。 ・知識やスキルは常にアップデートし、科学の発展についていこう。
私もこれからずっと勉強です。新しいことも楽しんで吸収していきたいです。

研究職を志望する学生にお勧めするサイト

研究職を中心に就活を目指している学生の方は、
大学院生&理系学生に特化した就活サイト、
アカリクが役立ちます。
最近は、「アカリクイベント」というオンライン就活イベントも行われているそうです。以下のリンクから、一度覗いてみて下さい。
【アカリク】
アカリクイベントは、こちら
オンライン就活イベント【アカリクイベント】